

測 定 する 能 力	論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力	論理的表現力
	日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。	文章を論理的に読む力。文章の構造を論理的に説く力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。論理的に書く力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。論理的に書く力。	他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

《問題Ⅰ》 論理的言語力 (40点)

● 解答 第一問

(1) 行数	8 行目	正	誤	このような地理的
(2) 行数	15 行目	正	誤	この地域出身の
(3) 行数	1 行目	正	誤	歌詞の内容は心に
(4) 行数	9 行目	正	誤	つまり山に厳しさを
(5) 行数	7 行目	正	誤	その山から吹き下ろす風

第二問 C → B → D → A

■配点 第一問 各5点 第二問 15点

◆ 解説

第一問

(1) 「このような地理的、自然的環境と関連づけて歌われることが多いのだ。」とありますが、この文には「何が」に当たる言葉がありません。

(2) 「この地域出身の偉人」とありますが、特定の地域ではなく、一般的な話なので、「この」ではなく、「その」。

(3) 「歌詞の内容」は、「心に深く刻み込んで」の目的語だから、「を」。

(4) 具体例なので、「たとえば」。

(5) 「その山から」は直後の「吹き下ろす風」につながっているため、言葉のつながりを切る読点を打つことはできません。

第二問

各段落の冒頭に着目すると、Aは「このような歌詞」と指示語を使っているため、最初にすることはありません。

段落Bには、校歌の内容が校風だけでなく、地理的、自然的環境に関係づけられて歌われることが多いとあります。それに続く内容がDの地理や自然だけでなく、歴史や文化など様々なものが歌われることも多

いです。Bを前提に、次にDと展開するので、B→Dとなります。

そこで、冒頭、Cが来るか、Bが来るかのどちらかだと分かります。そこで、Cを検討すると、「では、その校歌にはどんな内容が歌われていたのか、思い起こしてみたい。」とあるので、それに対する答えがB→Dだと判明します。

最後にそれを受けて、Aがまとめの内容となります。

《問題Ⅱ》 論理的読解力A (40点)

● 解答

第一問 それを苦痛

第二問 (1) ウ (2) ア (3) カ

(4) イ (5) エ

第三問 (A) オ (B) ウ (C) イ

(D) エ (E) ア

第四問 織り交ぜられた糸

第五問 我身の運命を怨む

■配点 第一問 5点 第二問 各2点

第三問 各3点 第四問 5点

第五問 5点

◆ 解説

第一問

「それを苦痛として感ずる」とありますが、問題文中の「それ」の指示内容がありません。欠落文「自分が何の悪い事もしないぬに、余所から迫害を受けなければならぬようになる」ことを苦痛として感じています。

第二問

(1) 直後の「処女」から、「無垢」が答え。

(2) 日本語として直後の「の嬉しさ」につながる言葉は、「刹那」しかありません。

その瞬間、嬉しさを感じたのです。

(3) 金を貸してくれないのだから、「因業」。「因業」とは人に対する仕打ちが情け容赦がないさま。

(4) 「悔やしい」は、「概念」です。

(5) 作者がお玉の心情を分析しているので、「条理」。

第三問

迷ったら後回しにして、確実な選択肢から確定させていくこと。

A 上さんが女中の梅を追い返す理由なので、オ。

B お玉がまず思ったことですが、選択肢の中でウしか該当するものはありません。

C 直前の「嬉しさに動されて」から、イ。

D 直後の「これが」の指示内容は、エ。

E 直前の「もう余程落ち着いていた」から、ア。

第四問

お玉の胸にこみ上げてきた様々な感情を比喩的に述べたのが、直後の「織り交ぜられた糸」。

第五問

お玉の涙が溢れそうになった理由を抜き出すのですが、作者はその直後から彼女の心情を分析します。ところが、その説明は「Aではなく、Bでもなく」といった論理展開なのです。そして、傍線部と同じ段落の最後に「そんなら何が悔やしいのだろう」とあるので、「悔やしい」のどとは分かりますが、何が悔やしいかは次の段落を読んではいかなければなりません。「強いて何物をか怨む意味があるとすると、それは我身の運命を怨むのだ」とあることから、「十字以内」という条件も考慮すると、「我身の運命を怨む」が答え。

《問題Ⅲ》 論理的思考力 (40点)

● 解答

第一問

(1) 動作は・描写を

(2) 私は・どうも

第二問

(1) 民主主義は国民の不断の（不断の国民の）努力によるものである。

(2) 朝起きると透明な光が差し込むのを見た。

第三問

(1) 君の意見は無味乾燥すぎる。

(2) 君は徹頭徹尾反対した。

第四問

(1) お伽噺に出てくる不思議な出来事は現実には起りにくいから。

(2) あるテーマを芸術的に強く表現するには異常な事件が必要だが、それが不自然にならないように昔に舞台を求め、その時代の社会状態も取り入れるため。

■配点 第一問 各4点

第二問 各4点 第三問 各4点

第四問 (1) 6点 (2) 10点

### ◆解説

#### 第一問

- (1) 「小説の風景描写は登場人物の心情を投影している。」が該当する一文。  
(2) 「私の目の前をいくつもの電車がゆっくりと通り過ぎた。」が該当する一文。

#### 第二問

- (1) 「民主主義は―よるものである」が一文の要点。「国民の」↓「不断の」↓「努力」とつながります。  
(2) 述語が「見た」。目的語が「差し込むのを」。後は「朝」↓「起きると」、「透明な」↓「光が」↓「差し込むのを」とつながります。

#### 第三問

すべて単語に分解されていますので、付属語（助動詞・助詞）を自立語につけて、文節を作ります。

- (1) まず「無味乾燥」という四字熟語を見つけてます。後は、「君の」「意見は」「すぎる」と文節を作ります。  
(2) まず「徹頭徹尾」という四字熟語を見つけてます。後は、「君は」「反対した」という文節を作ります。

#### 第四問

- (1) お伽噺に「昔々」「今は昔」と書いてあることを、「あれは何故であろう」と問題提起していますから、その後の答えとなる説明箇所を要約します。「お伽噺の中に出て来る事件は、いづれも不思議な事ばかりである」のだから、それが「今」の話だと都合が悪いのです。  
(2) 芥川が昔を材料にした小説を書くのも、お伽噺に「昔々」と書いてあるのと同じ理由だと述べています。要点となる箇所は、「テエマを芸術的に最も力強く表現する為には、或異常な事件が必要になる」「不自然の障碍を避ける為に舞台を昔に求めたのである」「その時代の社会状態と云うようなものも、自然の感じを満足させる程度に於て幾分とり入れられる事になって来る」。これらを受けて、最後に「だから所謂歴史小説とはどんな意味に於ても「昔」の再現を目的にしている」と結論づけています。特に、因果の接続語「だから」に注意。

### 《問題Ⅳ》

#### 論理的読解力B

(40点)

### ●解答

#### 第一問

天は富貴を人に与えずして、これをその

人の働きに与うるものなり

(天は人に富貴を与えずして、その人の働きにこれを与うるものなり)

#### 第二問

これがため

#### 第三問

心を使う難しい仕事に従事しているから。

#### 第四問

b ア

#### 第五問

(1) ク (2) ウ (3) ア

#### 第六問

貴賤上下の区別なく誰でも実学に励むことで、個人も家も国家も独立するべきである。

### ■配点

第一問 4点 第二問 5点  
第三問 5点 第四問 各3点  
第五問 各2点 第六問 10点

### ◆解説

#### 第一問

「天は―ものなり」が一文の要点。「与えず」「与うる」に着目すると、「富貴を」↓「人に」↓「与えず」、「その人の」↓「働きの」↓「与うる」となります。

#### 第二問

――の冒頭で、筆者は学問とは「実のなき文学を言うにあらず」と、実利をもたらない文学を否定しています。続いて、「これがため」とありますが、その指示内容が問題文中にはありません。そこで、欠落文を検討すると、欠落文がその指示内容だと分かります。

#### 第三問

傍線部直前に「ゆえに」とあるので、その前にある「すべて心を用い、心配する仕事はむずかしくて」がその理由だと分かります。

#### 第四問

「されば」は順接なので、順接ではないものを探します。bはその直前に人が生まれるながらに平等だと述べているのに対して、直後では現実には人それぞれに差があると述べているので、逆接の「されども」が入ります。

#### 第五問

- (1) 直後の「上下の差別なく」から、「貴賤」。  
(2) 「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」の真意を述べているので、「趣意」。  
(3) 直後に「なれども」と逆接を使い、その後「さまざまだがめ貴むべきものにあらず」とあるので、肯定的な言葉が入ります。「調法」は便利ということ。

- (4) 直前で「かかる実なき学問はまず次にし」とあるので、「もっぱら勤むべき」は「実学」だと分かります。また直前の「普通日用に近き」も根拠。

(5) 「修身学とは」とあるので、「道理」。

#### 第六問

趣旨とは最終結論のこと。末尾の「右は人間普通の実学にて、人たる者は貴賤上下の区別なく」「身も独立し、家も独立し、天下国家も独立すべきなり」が最終結論。ポイントは、①「実学に励む」、②「貴賤上下の区別がない」、③「個人も家も国家も独立するべき」の三点。

\*\*\*

### 《問題Ⅴ》

#### 論理的表現力

(40点)

### ●解答例

#### 「賛成」

政府は国民の生命財産を守る義務があるのだが、昨今の国際情勢を省みると、アメリカなど他国との防衛上の協力が必要なのは言うまでもない。自衛隊の安全を前提に、友好国への後方支援などは憲法の範囲内である。自国のみ一方的に守ってもらうのではなく、互いに防衛上の協力をし合うことで、初めて国民の生命と財産を守ることができるのだ。

#### 「反対」

集団的自衛権があくまで違憲であることは疑いもない。政府は国民の生命と財産を守る義務があるのだが、平和は武器によってなされるものではない。さらに他国の支援をすることにより、日本も戦争に参加したと見なされ、国民がテロなどの標的になる可能性が高い。また参加の条件を明確にすることも困難であるし、自衛隊の安全を保証することもできない。

■配点 各20点

### ◆解説

クリティカルシンキングとは、人間が特定の思想や固定観念にとらわれやすいことを念頭に置き、極力客観的に、冷静な立場で物事を考えることを言います。現在のネット社会において、最も大切なスキルの一つと言えるでしょう。

本問も自分の意見を提示するのではなく、与えられた条件(ルール)を理解し、一つの自体に対して、両方の側から論理的に整理する能力を試したものです。

まずは設問をしっかり読み、「論証責任」「①～⑩の言葉を使って」「それぞれ四個以上使用すること」といった条件を満たすこと。

特に、十個の言葉を、「賛成意見」と「反対意見」に分けて整理し、それらの論理的な組み合わせを考えることが大切です。